

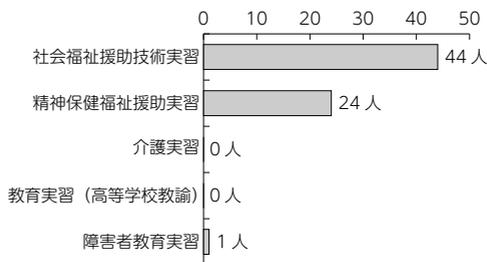
# 8部

3月卒業者アンケートより

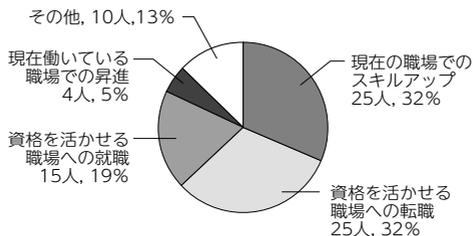
平成27年3月に本学通信教育部を卒業された方283名を対象にアンケート調査を実施しました（回答者144名）。『With』109号に引き続き、今回は実習・国家試験対策を中心にアンケート結果をご紹介します。今後の通信教育部での学習にご活用いただけたらと思います。

## 1. 実習について

アンケート回答者のうち、実習を行った方は66名でした。行った実習種別については図1のとおりです（複数回答あり）。また、実習を行った目的については図2のとおりです。



【図1】行った実習種別（N=69 複数回答）



【図2】実習を行った目的（N=79 複数回答）

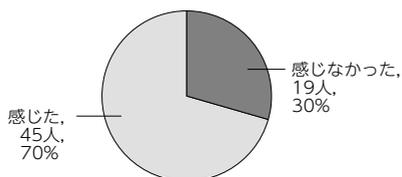
①実習で苦勞したこと、②克服・対処した方法、③どうすれば対処・回避できたとされるかについては以下のとおりです。

- ・①日々の実習目標や実習内容を全て自分で考えて進めていかなければならなかったこと。②帰校指導時に先生と進捗のすり合わせを行った。自分で作成したスケジュール表を持参して指導を受けた。③学びたいこと、実施したいこと等をしっかり書き込み、明確な目標を定めた実習計画書を作成することが最も大切だと思う。
- ・①実習当初は利用者の方とコミュニケーションをとることに苦勞した。②実

習指導者に質問しアドバイスをいただいた。話す内容をいくつか用意しておくくとスムーズにコミュニケーションがとれた。③利用者とお話する中で、福祉に関する制度など専門的な知識が必要になることが多々あったので、事前にしっかり学習しておけば、もっとコミュニケーションが深まったと思う。

- ・①実習を4分割してもらったので、間があくことで状況の変化についていくこと。②指導者の方に相談したりアドバイスを受けたりした。③指導者の方とコミュニケーションをとること。
- ・①利用者の気分が優れない場合の対応。②職員へ相談した。③利用者とのコミュニケーションを取り、本人の人間性を理解しておく。
- ・①実習でイメージしていたことと、実際とのギャップ。計画が思っていた通りには進まないこと。人間関係。②実習指導者や帰校指導のときに相談をした。③事前にもっと計画の摺り合せをすべきだった。できること、できないことを事前に分かっていると計画を立てやすい。
- ・①実習先が運営する事業所が多数あったため、毎日違う事務所に行き、毎日実習初日の緊張感が続いたこと。②巡回指導の先生から「毎日違う職員の方に接するため、嫌な人間関係に陥ることがない」とアドバイスされ、気持ちを切り替えることができた。③気持ちの持ちよう。毎日新しく学べるのだと思いを直したこと。
- ・①とにかく実習記録を書くのに時間がかかった(3~4時間くらい)。②実習計画を何度も読み直し、自分のその日の目的を見失わないようにした。目的に沿った記録が書けるように実習も取り組んだ。③うまく対処できたと思えていません。早く記録を書けばもう少し実習も主体的にできたのではと思う部分もあります。でも、それが私なりの実習だったという気もします。
- ・①こどもたちとの関係作り。②こどもたちの背景を理解した上で、できるだけ自己開示していく。③事前にボランティアなどで実習先にいるような子どもたちと関わることでできていると良かったと思う。
- ・①希望していた種別ではなかったので、どのように学習(実習)を進めていくか悩んだ。②高齢者福祉について再度勉強し、指導者の方等に話をうかがった。③実習させて頂くから、できる限りのことを学ぼうと気持ちを切りかえました。対処や回避はできないと思います。
- ・①学生という立場での関わり方が難しかった。そこだけを意識してしまったので、さらに悪循環になったと思う。②実習の手引きを何度も読んだ。③自分の気持ちを言語化することに慣れることから始めなければいけなかった。言語化して伝えるというトレーニングが十分にすればよかった。

実習にて事前学習の準備不足を感じたことはあったかについては図3のとおりです。7割の方が準備不足を感じたようです。



【図3】実習にて事前学習の準備不足を感じたことはあったか (N=64)

準備不足を感じた具体的内容については以下のとおりです。

- ・障害特性への理解が不足していた。
- ・利用者さんと職員とのやり取りが、バイステックの原則などを十分に活用したものでありながら、自分では、その時その場ですぐに感じ取ることができなかった。もっと事前に十分勉強して身に付けておくべきだった。
- ・地域の社会資源についてもっと知っておく必要があった。
- ・社会福祉士の国家試験の勉強をある程度したうえで実習ができていれば、もっと勉強になったのではと思う。
- ・知識不足はもちろんのこと、それが実践となるとなかなか頭の引き出しがあかず、返答に困ったり、対応に困ったりすることがあった。
- ・どんな施設であるかを事前に学習することが必要。具体的な課題を明確にし、指導者へ伝えることで、実習の進み具合が変わっていく。

実習前、多くの方があらゆる不安を抱えていました。具体的には以下のとおりです。しかし、こうした不安を皆さん乗り越えて実習を終えられました。

- ・体力と気力がもつか。
- ・患者さんの病状に応じて、自分が対処できるか不安でした。
- ・事前学習が万全ではない段階で実習に入ってしまったので、実習についていけるだろうかという不安があった。
- ・初めての所で実習させていただくので、実習先の利用者さんや職員の方々とうまくコミュニケーションが図れるか不安がありました。
- ・家事と育児の両立。
- ・生徒への関わり方や研究授業、指導案の作成。
- ・長期間、仕事を休むこと。
- ・約1ヶ月で成長できるのだろうかという不安とプレッシャーがありました。
- ・年齢的な不安があった。若い人と比較をされるのではないかと、やらせてもら

える内容も異なってくるのではないかと考えた。

- ・福祉分野での職場経験が全くなかったこと。

多くの方が実習を通し、それまでの価値観を変えさせられるような多くの出会いや学びを得ることができたようです。実習開始前と後とであなた自身が変わったことは何かについて、具体的な内容は以下のとおりです。

- ・支援を受けて就職したり、落ち着きを取り戻したりした方々を見て、「支援があればより良く生きられる」人が大勢いることを実感しました。実習がきっかけとなり、自分自身も働き始めました。自分が関わることで少しでも喜ばれ、役立つことができれば、という思いで仕事をしています。
- ・自分の住んでいる地域、特に高齢者を取り巻く環境がどのようなものであるかを理解することにより、大学で学んだことをそのままにせず、より深く、自分のすべきことを追求しようとする気持ちが深まった。
- ・障害者の「障害」とは何か、生きづらさについて、何度も考えさせられ、多面的な見方をするようになりました。
- ・「相手の立場に立つ」ということが、とても重要であることはわかっているつもりでも、「自分の価値観や考え方によって思い込みや先入観が生じている」ことに気づいた。実生活においても、相手を「わかったつもり」にならないよう気をつけたい。
- ・今の仕事の主な対象者は子ども（小・中学生）なので、成人が対象者の場合、自分がどのように感じ対処することができるのかを経験できた。今後の仕事が変わるので、実習の経験を生かして、さらに勉強していきたいと考えた。
- ・実習前は机上の勉強で得た知識でしかなかった援助技術を、実習の中で実際にやってみたり、スタッフの方の関わりを見て学ぶことで、より具体的なものになったと思う。そして、精神障害を抱える方への捉え方も変化した。実習前は支援者が常に何かをしてあげなければならない、援助しなければならないという先入観のようなものがあつたが、実習後はエンパワメント、ストレングス視点でその人の能力、できている点を見つけて関わり、本人のニーズに沿った支援に活かしていくことが大切なのだということに気づいた。
- ・今までは無意識の内にラベリングしていたが、ひとりひとり「個」として意識するようになった。
- ・震災が終わっていないことを感じた。
- ・児童養護施設に実習に行きたくて大学に入学したと言っても過言ではないが、実習してみて大変さがわかった。児童養護施設の実際がわかってよかった。こどもとの接し方を学んでいきたいと思った。
- ・おぼろげだった社会福祉士像がはっきりと見えてきたと思います。自分の行

動にも自信が湧くようになりました。

- ・職業人として自分なりのスタイルができました。短い時間でしたが、習ったことを実践することにより、自分の形の基礎が実習後に身に付いています。

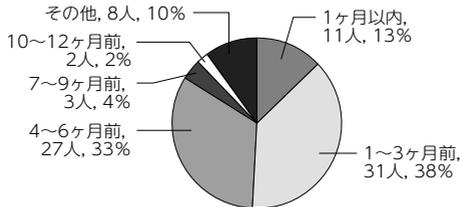
今後実習を行う在学生へのメッセージは以下のとおりです。

- ・ソーシャルワーカーの仕事はこれからますます幅広い分野で必要とされるようになっていきます。勉強は資格を取るためだけではなく、より多くの人たちへ役立てるために続けてほしいです。実習も資格のためだけではなく、貴重な出会いの場であり、実習生とはいえ少なからず影響を与えることになるということを意識したほうがいいと思います。
- ・実習前はとにかく準備することがたくさんです。時間の確保が難しいとは思いますが、事前学習の1つだと思ってボランティア活動をすると、実習で本当に自分がやりたいことができると思います。
- ・時として自身が思い描いていたことと違うことをしなければならないこともあるかもしれない。そのような時でも決して腐ることなく続けていけば、きっといいことがあるはず。私の場合、多くの利用者さんとコミュニケーションをとり、笑顔で会話することができたのが大きな力となった。
- ・卒業した自分の姿をイメージし、学習のモチベーションを保てれば、きっと苦しくとも学びの楽しさを感じ取れると思います。
- ・孤独だと感じたら、全国に仲間がいることを思い出してください。
- ・実習は、誠実に謙虚に日々取り組むこと、粘り強くやることが大切だと思った。人との関わりが最も苦勞する部分かと思うが、苦手な人に対しても粘り強く接し続ける努力が必要であると痛感した。人との関わりは、いつまでも武者修行であると考えている。
- ・実習を終えて強く感じたことは「実習を行うことができるのは当たり前ではない」ということだった。自分が利用者の立場だとしたら、どこの誰かもわからない人間が、自分の生活圏にズカズカと入ってくる、自分の生活や人生について勝手にプランニングされるなどということは通常あり得ないこと（感謝の気持ちを忘れてはならない）。
- ・先輩、実習先の方のアドバイスをたくさんもらうこと。自分の考えをしっかりとつこと。
- ・諦めさえしなければ道は開ける。
- ・今思い返すと、実習が一番大変だった。でも、実習が一番ためになったとも思う。
- ・実習は良いことも悪いことも自分の力になるので、1日1日をぜひ楽しんでください。

- ・実習先をできるだけ知ること。実習先ではどんな行政サービスと関わり、その地域にはどんなサービス等があるか等も知る必要がある。
- ・すぐ手の届くところに『学習の手引き』『レポート課題集』『With』『実習の手引き』をおき、メールは毎日チェック。心配になったらすぐ調べる。やらなければならないことを各資料から抜き出し、スケジュール帳に記録し、とにかく漏れないようにすることです。気を抜いて失敗した経験からアドバイスです。
- ・実習先の施設等の下準備、理解はそのまま国家試験勉強になるので、実習中にその科目（障害者、高齢者、児童等）について深く勉強しておくべきだと思います。
- ・すばらしい実習指導者に会おうと人生が変わると思います。実習先は自分で探したのですが、大学のリストに載っていない施設等でも良いところがあります。自分は運が良かったということもありますが、人脈を頼りながら自分で探すということも良いと思います。
- ・とにかく声を出す、挨拶・返事すべてにおいて自分の声を聞くことで自分自身が一番安心します。
- ・明けない夜はない。どんなに辛くても必ず朝は来るし、必ず実習は終わります（諦めて投げ出してもダメだけど）。
- ・実習は事前準備から、日々の実習、実習先の職員の方との関係など、本当に大変ですが、得られるものも多く、必ずやってただけ自分に返ってくるものです。頑張ってください。
- ・実習中は体調管理、実習記録作成が大変だと思います。ちょっとした気分転換の仕方を見つけて、適度に気分転換できるといいかと思います。施設実習に行かれる方は社会福祉士になるための実習であることを忘れず、実習に臨まれるといいと思います。介護実習で終わってしまわないようにするためです。

## 2. 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験について

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の勉強について、勉強開始時期は図4のとおりです。



【図4】国家試験の勉強について、勉強開始時期 (N=82)

アンケート回答者のうち、特に国家試験に合格された方は計画をよく立てられ、効率的に勉強された様子がうかがえました。具体的な受験勉強の内容としては以下のとおりです。

- ・大学から送られてくる問題を解き、結果が返ってきたあとに正しい答えをノートに書く。市販の過去問を繰り返し解く。法律や用語など大事なところの下線を引きながら読み、正確に覚える。
- ・6月頃は、過去問に目を通し、初めはできそうな問題、得意な科目を解いた。8月上旬にオンデマンドで国試対策を視聴し、体験談を参考に参考書を購入、1日30分～1時間の勉強を行う。12月中旬に、実習終了後、事後スクリーニングを終えてから本格的な勉強に入る。仕事のある日は1日1～2時間、休みの日は5～8時間の学習。試験1週間前は、1日8時間、時間を計りながら過去問を行う。
- ・ひたすら過去問を解き、間違った問題を繰り返し見直し、制度等正しく理解し直す。
- ・過去問3年分を3回、さらっと流しました。主に予想問題を中心に3回じっくり勉強しました
- ・過去問を中心に学習を行った。間違った問題についてはワークブックを利用して解答を確認した。通勤の電車では一問一答を繰り返し読んだ。
- ・夏ごろから中央法規の一問一答アプリを合間の時間でやっていました。試験前までに2014年度版、2015年度版を終えました。その他にワークブック、模試を使って勉強しました。
- ・1年くらい前から過去問を見ることや、既に習った科目の所は解いていた。本格的に取り組んだのは4ヶ月前からで、過去問を中心に3回位繰り返したり、苦手な問題に付箋を付けて、自信がついた時付箋をはずしていき、でき

ていない部分を目で見て分かるようにした。

- ・休日や出勤前の早朝にとにかく過去問、予想問題を繰り返した。

国家試験対策で利用されていた参考書籍は以下のとおりです。

- ・『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規出版
- ・『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験模擬問題集』中央法規出版
- ・『社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験ワークブック（共通科目・専門科目編）』中央法規出版
- ・『精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規出版
- ・『らくらく暗記マスター 社会福祉士国家試験』中央法規出版
- ・『社会福祉士完全合格問題集』社会福祉士試験対策研究会
- ・『精神保健福祉士試験穴埋め最終チェック700専門科目編』中央法規
- ・『社会福祉用語事典』医学評論社
- ・『社会福祉六法』ミネルヴァ書房
- ・『2015年度版 U-CANの社会福祉士これだけは解いておきたい！直近3年450問+厳選過去150問』ユーキャン
- ・『2015年度版 U-CANの社会福祉士速習レッスン（専門科目）（共通科目）』ユーキャン
- ・『いちばんわかりやすい！社会福祉士合格テキスト'15年版』成美堂出版
- ・『社会福祉士国家試験のためのレビューブック』メディックメディア
- ・『社会福祉士国家試験 受験対策講座 集中講義 実力アップ講座』中央法規
- ・『クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題解説』メディックメディア

本アンケートにご協力いただきました卒業生の皆様に御礼を申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念いたします。